

マタイ 18 : 1-14

「罪と罪人の問題と、神の御国に入ること」

18:1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」

18:2 そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、

18:3 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。

18:4 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。

18:5 また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。

18:6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

18:7 つまずきを与えるこの世はわざわいだ。つまずきが起こるのは避けられないが、つまずきをもたらす者はわざわいだ。

18:8 もし、あなたの手か足の一つがあなたをつまずかせるなら、それを切って捨てなさい。片手片足でいのちに入るほうが、両手両足そろっていて永遠の火に投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。

18:9 また、もし、あなたの一方の目が、あなたをつまずかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいのちに入るほうが、両目そろっていて燃えるゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。

18:10 あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

18:11 [人の子は、失われている者を救うために来たのです。]

18:12 あなたがたはどう思いますか。もし、だれかが百匹の羊を持っていて、そのうちの一匹が迷い出たとしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないのでしょうか。

18:13 そして、もし、いたとなれば、まことに、あなたがたに告げます。その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶのです。

18:14 このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません。

はじめに

マタイの福音書の中にある五大説教のうち、4つめの説教の学びに入ります。

聖書を学ぶときは、通読しているのではない限り、これから学ぼうとする内容の直前にどのようなことが起こったかを読んで理解しておくのが良いでしょう。

今日の個所では、直前のマタイ 17 : 24-27 を読みましょう。

マタイ 17 : 24-27

17:24 また、彼らがカペナウムに来たとき、宮の納入金を集める人たちが、ペテロのところに来て言った。「あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないのですか。」

17:25 彼は「納めます」と言って、家に入ると、先にイエスのほうからこう言い出された。「シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか。」

17:26 ペテロが「ほかの人たちからです」と言うと、イエスは言われた。「では、子どもたちにはその義務がないのです。

17:27 しかし、彼らにつまずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい。」

この一見些細な出来事が、18章への導入となります。

当時、ユダヤ人の成人男性は、宮への援助金として一人当たり2ドラクマを納めなくてはなりません。

イエスと弟子たちがカペナウムに到着すると、宮の納入金の徴収係が「あなたがたの先生（イエス）は宮の納入金を納めないのか」とペテロに質問します。

これにペテロは、「納めます」と答えました。

そして、どこかの家に入ると、イエスはそのいきさつを知っておられ、宮の納入金の話を持ち出されます。

そして、シモン・ペテロに尋ねられます。「どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか。」

ペテロは、「ほかの人たちからです」と答えました。

つまり、世の王たちは、自分の子どもたちから税金を取らない、ということです。

イエスは、魚の口からお金を見つけさせるという奇跡を起こして宮の納入金を支払うようになさいましたが、それがこの話の主題ではありません。

イエスがペテロに教えようとしておられたのは、天の父の御子であるイエスには、宮の納入金を支払う必要はないということです。

また、ペテロも神の御国に属する一員ですから、宮の納入金を支払う必要はありません。

イエスは、神の御国に入れることの祝福と恩恵をペテロに気づかせようとしておられました。

けれども、旧約聖書と新約聖書は共存するので、この時は、イエスは奇跡を起こして納入金を備えてくださいました。

とは言え、イエスは新たなコミュニティの誕生へと突き進んでおられました。そこで、イエスは神の御国という新たなコミュニティでの関係性について教えはじめられます。

18章の主な内容は、罪を知って対処することと、神の御国で罪を犯す人々についてです。

18章はふたつに分けてお話することにします。

今日は前半の18章1-14節、来月の10月6日に後半の18章15-35節を学びます。

1. 弟子たちの質問（1節）

弟子たちは、「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」と尋ねました。

この「それでは」とは、宮の納入金の話とのつながりを指しています。

弟子たちは、イエスに大きな特権があることに気づきました。けれども、弟子たちは何を手に入れられるのでしょうか。新たな王国で一番偉い弟子になるのは誰なのでしょう。

この質問の前に、ペテロはいろいろな出来事に関わっていたので、イエスがペテロを神の御国で特別な地位に就かせられると他の弟子たちは思ったかもしれません。

けれども、そのようなことを尋ねていたのが弟子たちの最大の問題です。

弟子たちは神の御国での地位について、世俗的な考えでいろいろ考えていました。けれども、イエスが一番気にかけておられたのは、地位ではなくて、神の御国に入れるかどうかです。

イエスは、私たち自身が罪を犯さないようにすることと同時に、私たちの行いによって人に罪を犯させないようにすることも重視しておられました。

2. イエスが神の御国に入る条件について語られる。（2-5節）

イエスは、天の御国で誰が一番偉いのかという弟子たちの質問を無視しておられるように見えます。その問いにイエスが直接お答えにならなかったのは、弟子たちの考え方が間違っていたからです。

彼らは、地上の王国を思い描いて、地上の価値観で考えていました。一方イエスは、霊的な価値観に基づいた天の御国について教えようとしておられました。

実際、イエスはちゃんと質問に答えておられますが、弟子たちが期待していた答えではありませんでした。

質問への答えとして、神の御国に入る条件を指摘されます。

小さな子どもを例に取り、神の御国に入る方法を弟子たちに教えられました。

「あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。」というのがイエスのお答えです。

これはどういう意味でしょう。

マタイの福音書で、イエスが子どもについて語られる個所が4個所あります。

それぞれの場面で常に、イエスの近くに子どもがいました。そして、イエスはご自身の教えを説明するために、子どもを例に用いられました。

(マタイ 14:21,15:38,18:3,19:3)

子どもたちがイエスに魅力を感じて、そばにいたがっていたことは明らかです。

その様子が思い浮かびます。

イエスが子どもを抱き寄せます。弟子たちは、イエスの教えを聞こうと、そのまわりにいます。

まず私たちが理解しておくべきことは、イエスが子どもの持つどのような性質を弟子たちに求めたかということです。

その性質が、悔い改めて天の御国に入るのに必要な条件です。

小さな子どもと結び付けて考えやすい好ましい性質はいくつもあります。

単純で、正直で、従順で、見栄を張らず、謙虚で、信じる心を持っています。

子どもも人間の罪の性質を生まれ持っており、悪いことをするときもありますが、ある程度の年齢になるまでは、このような好ましい性質を持ち合わせていると言えます。

この個所からはっきりわかるのは、イエスが弟子たちに注目させたい性質が謙虚さだということ。

つまり、私たちが幼い子のようにへりくだらなければ、神の御国には入れないのです。

イエスがここでおっしゃっているのは、神の御国に入るためには、謙虚にイエスを信じなくてはならないということです。

マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

ここでご紹介する古いオランダの詩は、子どものような信仰の必要性を物語ります。

主よ、私を再び子どもにしてください
か弱く小さな子どもに
自分には何もないと知り
あなたにすべてを見いだす者にしてください

救い主よ、私を再び小さき者にしてください
どんどん低くなり
私の心が昔の信仰を
取り戻せますように

あなたとともに、十字架にかかり
生きるのはもはや私ではありません
救い主よ、私の罪深い誇りを砕いてください
赦しを与える恵みによって

主よ、私を再び子どもにしてください
あなたの召しに従い
自分には何もないと知り
あなたにすべてを見いだす者にしてください

今あなたがクリスチャンなら、過去のいつかの時点で、へりくだって罪を認めたはずです。その罪が、聖なる宇宙の創造主であるお方と私たちを引き裂いていると悟ったはずです。そして、罪を悔い改めて、イエスを信じなさいと招くイエスのことばを、謙虚に受け入れたはずです。

今まだクリスチャンでない人は、幼い子のようになって、聖書に記されたイエスのことばを謙虚に受け入れるのがむずかしいのかもしれませんが。

けれども、そうしなければ、いつまでも神の御国の外側にしかいられません。

神に助けを求めれば、幼い子のようになれるよう助けてくださいます。そして、神のことばを信じられるように、謙虚さと信仰を与えてくださいます。

今日、そのように祈ってはどうでしょう。プライドに満ちた心を変えて、へりくだって小さな子どものようにイエスを信じられるように助けてください、とお願いしてみませんか。

3. イエスは、イエスに接するのと同じ態度ですべての信徒に接することを私たちに求められる。

(5 節)

5 節はすべてのクリスチャンにとって非常に大きな課題です。

イエスがここで言うておられるのは、クリスチャンは皆平等だということです。

クリスチャンのコミュニティに身分の差はありません。

皆、恵みによって救われ、恵みによって生き、たましいの救いを信じて死にます。それは、私たちの罪のために十字架で死なれた主イエス・キリストの恵みのおかげです。

この 5 節は、6-9 節への導入の役割を果たします。

4. イエスは、罪を退け、マイナスの影響を及ぼすことを避ける生き方をするよう呼び掛けられる。 (6-9 節)

この箇所もまた、イエスを信じる信徒にとって大きな課題です。大きな課題である理由はふたつあります。

まず、信徒の生活における罪をイエスは深刻な問題として受け止めておられるからです。次に、私たちクリスチャンの行いが他人に罪を犯させる危険性があるからです。

イエスは、私たちに罪を犯させる物事を完全に排除することが唯一の道だとおっしゃいます。つまり、誘惑に勝つには、徹底的な対策が必要だということです。

徹底的な対策とは、祈りです。

マタイ 6 : 13

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。

マタイ 26 : 40-41

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしと一しょに目をさましていることができなかったのか。」

26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

神の助けを祈り求めるなら、私たちは誘惑に対して勝利を宣言することができます。

マタイ 7 : 7-8

7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

7:8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

コリント第一 10 : 12-13

10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

10:13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

ヘブル 2 : 17-18

2:17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。

2:18 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができになるのです。

5. イエスは、思い上がりや虚栄の根本原因を明らかにされる。(10 節)

イエスは 10 節で、小さい者を見下したり、軽蔑したりしてはいけないとおっしゃいます。小さい者とは、神の御国に入るために小さい子どもようになった人々を指します。

原語のギリシャ語では、「他人を自分より下だと考える」という意味の単語が使われています。

私たちが持つべき正しい態度について、パウロはピリピ 2 : 3-4 で教えています。

ピリピ 2 : 3-4

2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。

2:4 自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。

6. イエスは、失われた人々を救うことに関心を寄せられる。(11-14 節)

11 節でイエスは、失われた人々に関心を寄せているとおっしゃいます。

マタイ 18 : 11

18:11 「人の子は、失われている者を救うために来たのです。」

失われている者とは、罪によって創造主なる神から引き離された状態の人々のことです。この直後、イエスは失われた人々にご自身が手を差し伸べられることと、私たちがどのようにその過程に関われるかとを説明されます。

このたとえのさらに詳細なものはルカ 15 : 3-7 に記されています。

もし、私たちがこの時代の羊飼いで、たくさんの羊の世話をしているその一匹がいなくなったら、いなくなった羊をすぐに見つけて助けようと思うでしょう。獣に襲われて死んでしまう危険性が高いからです。

弟子たちは、ここでイエスが強調しておられる要点をじゅうぶん承知していたはずですが。

イエスは、失われた人々に手を差し伸べるのは、クリスチャン人生で非常に重要なことだと言っておられます。

イエスは、失われた人々に対して私たちが手を差し伸べることを望まれます。イエスがこの世に来られた一番の目的が、失われた人々を救うことだからです。

イエスは、十字架上で死んで、神の御怒りを受けてくださいました。それは、私たちが罪の罰から救われるためです。

今日、私たちは聖餐式に与ります。イエスが私たち一人一人のためにくださったすばらしい御業を覚えるためです。イエスは、栄光に満ちた天を離れ、この世に来てくださいました。神の永遠の御怒りと罰から私たちを救いだすためです。

今日私たちが自分に問いかけるべきことは、次のとおりです。

「私は、神の御国の外にいる失われた人だろうか。それとも、神の御国の中に入った救われた人だろうか。」

14 節は、失われたままで神の御国の外側にいる人がいることは、神のみこころではないと語ります。

すべての人が神の御国に入るために必要な手はずは整っています。イエスはご自身の十字架の死によって、確実に準備をしてくださいました。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神のもとに来るようという招きを受け入れる妨げとなっているのは、ただひとつ、私たちのプライドです。

今日の課題は、私を謙虚にし、小さな子どものような信仰を与えてくださって、神の御国に入れるようにしてください、と神に祈ることです。

もうすでに神の御国に入れる人は、他の人にプラスの影響を与えられるような生き方をする務めが与えられています。

私たちの行いや生き方が、他の人に罪を犯させるようなことがあってはなりません。

人に罪を犯させたり、罪深い行動や態度に人を向かわせたりするような行いや態度が私たちのうちにあるなら、そのことについて祈ってすぐに対処しましょう。

祈りましょう。